

えど こばなし 江戸の小話 (その二)

- 1 昔々、とてもケチな男の人がいた。ある時、手紙を出そ
2 うと思ったが、紙に書くの¹がもったいないと思った。「人
3 にやるものに、紙はもったいない。あれに書こう」と言っ
4 て、庭の柿の葉^{にわ かき は}っぱを2、3枚^{まい}取って、それに手紙を書い
5 て、使いの者に持たせた²。
6 しかし、その手紙をもらった相手^{あいて}はその男に負けず³ケチ
7 だった。
8 「ほほう。柿^{かき}の葉^はっぱ⁵の手紙だ。あいつはなかなかやる
9 な」と言って、手紙を持って来た使いの者に「すまないが、
10 上着^{うわぎ}を脱いで、背中^{せなか}を出してくれ」と言って、その男の人
11 がその背中^{せなか}へさらさらと手紙の返事^{へんじ}を書いた。
12 しばらく経^たって⁶、使いの者が帰ってきた時、旦那^{だんな}が「ご
13 苦労^{くろう}だった。手紙の返事^{へんじ}はもらったか?」と聞いた。
14 「はい。返事^{へんじ}は、ここにあります」使いの者が背中^{せなか}を見せ
15 た時、旦那^{だんな}は「なんと、その手^て⁸があったのか.....。さっき
16 の柿の葉^{かき は}っぱは、もったいなかったなあ」と残念^{ざんねん}そう⁹に言
17 った。

Vraag

1. Waarom had de gierigaard er spijt van dat hij bladeren had gebruikt?

¹の heeft hier een substantiverende functie ('het schrijven...'; MnN les 38)

²Causatieve vorm van 持つ: 'laten...'

³～ず = ～ないで

⁴'kaki (de boom of de vrucht ervan)'

⁵'blad, blaadje'

⁶たつ 'verstrijken, voorbijgaan (van tijd)'

⁷'echtgenoot, heer des huizes'

⁸Zoek op welke betekenis anders dan 'hand' het woord 手 hier zou kunnen hebben.

⁹Zie MnN, les 43.